

「英語発音クリニック」 大学エクステンションプログラムにおける 英語発音指導

—短期間の講座に求められるもの—

今井 由美子
上田 洋子

Abstract

This paper reports on “English Pronunciation Clinic,” as one of the extension programs at the English Society of Doshisha Women’s College and introduces the questionnaire results proving the meaning of continuing education for participants and the program designer. The program was offered from 2014 (fall) to 2018 (fall), twice a year, 5 classes per semester. Participants in the program ranged from undergraduates to adult learners. The results from the questionnaire taken from 12 participants (2016, fall) showed that 87% of them thought learning English pronunciation was helpful in accelerating their language study for school or work. 81% of them showed positive attitudes toward the pronunciation corrections done by the instructor, learning through phonetics theory and IPA symbols, using a PC for Internet practices. However, when asked regarding suggestions such as giving pronunciation evaluations scores, adding programs focused on business English pronunciation, or a customized private program, only 41% of them showed a clear interest. The participants’ opinions in their free comments section were varied. They were analyzed and the results implied that the life-long learning takes place best when the instructor stays in the role of facilitator, since the learners already know their learning goals.

1. はじめに

各大学においてその教育が広く社会に開かれた部分が大学エクステンションプログラム（生涯教育講座）である。インターネットで検索すると、大学の学部カリキュラムの特色を生かしたプログラムが全国で多く見受けられ、開講時間や場所なども社会人が参加しやすい配慮がなされている。本学今出川キャンパスにおいても英語英文学会主催による英語学習講座のひとつとして「英語発音クリニック」が2014年秋より開講し、2018年秋まで計9シーズン続いた。この講座は本稿の著者らの共通の研究領域である英語音声学をベースとしており、著者の今井がプログラムの構想を行い、上田が講師となり講座を担当した。社会人と学部生が共に受講するこの講座には、同じキャンパスで学ぶ英語専攻以外の学生やリピーター参加者も見られたため、様々な英語力や受講理由をもった受講生をいかに指導すべきか試行錯誤を繰り返した。また継続受講が可能であることから、リピーター受講生のためにどのような条件や内容がその受講のモチベーションの保持につながるのかを検討した。当初は全10回の連続講座であったものが、仕事や子育て、介護などで多忙な受講生の中から「毎回は受講することが難しい」「でも講座にはできるだけ出席したい」という声が出始めたのを契機に、2016年秋より1シーズン5回（開講日は事前に決定するが毎週開講ということではない）の講座に変更したところ、受講生数が安定し、リピーター数も増加した。講座は2018年秋で一旦閉講したが、本稿ではこの状況を振り返りながら、講座での指導でとりあげた学習項目や教材を紹介すると同時に、受講生へのアンケート調査の結果にもとづき短期間の生涯教育講座に受講生が求めるものについての考察をする。

2. 講座概要

(1) 受講生について

この講座は2014年秋から2018年秋まで9シーズン、土曜日の午前中に開講された。全受講生の記録からは、本学卒業生が6割、一般の受講生が2割、現役の学部生が2割ほどであることがわかる。年齢層は10代から70代までと幅広く、社会人受講生は主婦、会社員、自営業者などを含み、各シーズンの受講生数は平均9名であった。卒業生へのニュースレター、大学のホームページ、Facebook などを通して講座の告知を行ったが、それらがきっかけとなった受講生もいれば、発音の練習に興味があり、インターネットで検索し偶然本講座を探し当てたという受講生も毎回含まれていた。女子大学のプログラムのためか、受講生は全員女性であった。

(2) 参加の動機

初日の自己紹介や質問紙の回答からわかる受講の動機は様々であった。主な受講理由としては、TOEIC / TOEFL などの英語能力測定テストや仕事のための英語運用能力アップのため、独学での英語発音学習が困難だと感じ、英語教師(学校・塾)として指導の参考にするため、介護や子育て中の制約された時間における自己投資のための学習継続として、などが挙げられた。

(3) クラスの流れ

「英語発音クリニック」はCALL教室を使用する90分講座である。開講初日のオリエンテーションでは、国際共通語として通用する明確な英語発音習得を目標とすること、英語音声学用のテキスト(『Sounds Make Perfect』英宝社)を用いて発音記号と共に発音指導を行うこと、また応用教材としてインターネットでリアルタイムな英語教材を利用すること、過度

なヴォイストレーニングは行わないことを受講生に伝えた。

毎回の講座の流れは次の通りである。まず初めに英語発音の基本となる腹式呼吸による長短の息を吐く練習をウォームアップとして音楽に合わせて行った。他人の前で発音すること、さらに人前で発音を直されることは心理的負担であることは容易に想像できるため、受講生間の雰囲気づくりは講座のスムーズな進行には不可欠である。この講座冒頭のウォームアップを上手く利用して受講生間の緊張感を解き、親和性を高める配慮を心掛けた。

ウォームアップ後、前半（45分）は、発音記号を用いながら英語の母音・子音の発音練習を行った。また、英語発音の調音点・調音法を目で見えて理解できるように、口型の模型を用い（図1）、普段見ることのできない口腔内の調音点の確認を行った。さらに、目標とする発音のためにはどの様に唇やその周りの筋肉を動かす必要があるのかをテキスト用の動画（発音記号付き）を見て確認し、それまでの音声を「聞き真似をただけの発音練習」から、「発音記号を自分で読むことができる発音練習」へ替えるきっかけとした。後半（45分）では主に英語の超分節的特徴を紹介し、インターネットの動画サイト（歌、スピーチ、映画のセリフ、アナウンスメント、絵本など）を使い、より応用的な英語音声の課題とした。10回連続の講座を5回にした経緯があったために学習項目は厳選する必要があるが、成人学習者が音声学・音韻論の理論を知ることで学習効果を実感しやすい項目に焦点をあて、1）単語間

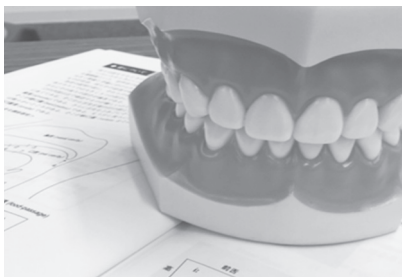


図1 口型模型

で起こる連結・脱落・同化、2）リズムを生み出す内容語、3）ピッチとイントネーション、4）話者の意図、5）合成語などの特殊な語強勢、を紹介した。リピーター受講生には、前半の母音・子音練習は、基礎練習として同じ繰り返しても受け入れてもらい、むしろ

後半のインターネットでの応用教材が毎回異なるので興味を持ってチャレンジしてもらうようにと促した。なお、受講生への発音チェックやコメントは、プライバシーへの配慮を踏まえて個別に行うようにした。

3. 質問紙調査

「生涯学習」と「英語発音指導」に対する受講生の思いを詳細に把握するために2016年秋に自由記述を含む質問紙調査を行った（資料1）。調査協力者は講座最終日に出席した受講生12名（学生2名、社会人10名）であった。質問紙は〔A〕と〔B〕から成っており、質問紙〔A〕では年代や職業、受講の動機、そして自由記述の回答を求めた。この自由記述では英語発音における向上と直接関係がなくても、講座を受講する中で自分の中での何らかの「変化」があったか否かについて書いてもらうよう促した。また質問紙〔B〕では、10の項目について5件法で回答を求めた（表1）。

これらの質問では、この講座を受講することが自分の英語運用能力を伸ばすことや仕事・学業・生活の活性化へ「役立つ」か（質問①、質問②）、また教室内で行われた指導法（発音を直される、理論の説明がある、発音記号

表1 「生涯学習」と「英語発音指導」に対する10の質問

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">①英語の発音を学ぶことは英語の能力全体を上げるのに役立つ②英語の発音を学ぶことは仕事・学業・生活の活性化に役立つ③指導者に自分の発音を直されたり、アドバイスされることに抵抗はない④音声学の理論を用いて説明する本講座の指導法に抵抗はない⑤発音記号を用いる本講座の指導法に抵抗はない⑥教室でPCを用いて発音を録音再生することに抵抗はない⑦教材としてインターネットの動画などの利用に抵抗はない⑧クリニックの指導法に、発音を点評価されるものがあれば受けたい⑨発音指導をビジネスの内容や絵本音読などに特化したものがあればよい⑩発音指導の出張講義があればよい |
|--|

を用いる、PCを使用する、動画サイトを教材にする)についてそれぞれ「抵抗はないか」(質問③～質問⑦)を問うた。またこの講座では行わなかった活動(発音の点数評価・学習目的にあわせた指導内容の特化・出張講座)(質問⑧～質問⑩)への希望の有無をたずねた。5件法の回答は「5:そう思う」「4:ややそう思う」「3:どちらでもない」「2:あまりそう思わない」「1:そう思わない」とした。

4. 結果と考察

質問紙〔A〕において受講の動機である「本講座を受講された最も大きな理由」を問うたところ、仕事(5名)、趣味/楽しみとして(3名)、英語能力検定などの得点アップのため(4名)、その他(1名)(「特定の目的に限定されずに speaking と listening 力をアップさせたいので」との回答を得た(重複回答1名を含む)。

自由記述回答において(資料2)は、「5回の受講で何か自分の中で変化がありましたか」という問いに対して、「単語間の同化や脱落を学ぶ機会がこれまであまりなかったので、役立つ」「海外ドラマを見ていて学んだことが出てきてわかると嬉しい」「特定の音素(例えば /ʌ/ や /ɔ:/)を誤解して認識していたことがわかって良かった」「発音記号を意識して発声するようになった」「60年前に発音記号を習った(略)どう取り組んでいいかわからなかった」など、単に「楽しかった、よかった」という感想ではなく、個人の学びに沿った具体的な感想が多くみられ、講座の受講が有意義であったと受け取ることができた。

また質問紙〔B〕においては表1の10項目の回答を集計したところ、質問①から質問⑦までは、ほとんどの回答が「5:そう思う」に集中した(図2)。回答人数12人中、「5:そう思う」と回答したのは、質問①が11人、質問②が10人で、生涯学習としての本講座が「役立つ」と明確に肯定的に捉えられた結果がでた。さらに、質問③が11人、質問④が12人、質問⑤が12人、質問

⑥が12人、質問⑦が12人という結果が示すように、指導方法や学習方法についての「抵抗」はないようであった。しかし、質問⑧の「発音を点数評価されるものがあれば受けたい」は「5：そう思う」が5人、「4：ややそう思う」が3人、「3：どちらでもない」が4人と、回答にばらつきが見られた。同じく質問⑨の「ビジネスの内容や、絵本音読などに特化したものがあれば良い」という問いについても「5：そう思う」が4人、「4：

10 項目の質問

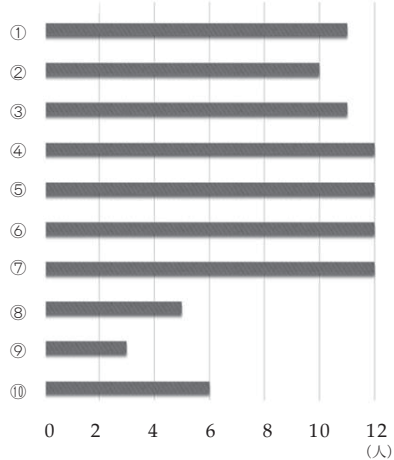


図2 「そう思う」の回答数

ややそう思う」が4人、「3：どちらでもない」が4人という回答であった。質問⑩の「出張講座があれば良いと思う」は「5：そう思う」が6人、「4：ややそう思う」が1人、「3：どちらでもない」が5人と、やはり意見のばらつきが目立った。これら3項目（質問⑧～質問⑩）は、今後の講座の多様な活用への希望を聞いたものであったが、発音評価ルーブリックを用いての「発音を点数評価」することや、ビジネスシーンや児童英語教育に向けてという意味での「内容の特化」、受講生のニーズにあわせるという意味での「出張講座」への要望はかなり個人的に差異がある傾向が読み取れた。

これらの質問紙調査の結果をまとめて考察すると、わずかではあるが受講生にとっての生涯教育と英語発音指導の関わりを知ることができる。社会人受講生にとっては週末の貴重な時間を使いエクステンションプログラムに参加するのは自発的な動機によるものであること、現役の学部生受講生にとっては成績がつけられたり評価されたりすることから「離れた状態」で学びたいということ、そしていずれの受講生も自分の課題を認識しそれを追及した



図3 エクステンションプログラム受講による作用

いという強い動機（本講座では自分の英語発音を向上させたいということ）を既に持ち得て参加していたことなどである。つまりエクステンションプログラム受講に際しては「自発的動機」が動力となり、受講という「取り組み」を得て、自らの置かれた「環境」に学んだことを還元していく仕組みを得て生涯学習が発動する（図3）。この「自発的動機」「取組」「環境」は3つの歯車となり、かみ合い方や動く方向により、受講

生の社会生活の中で多様な新しい気づきや満足感を生み出すのではないかと考える。

5. まとめ

角替（2016）は「生涯学習」と「生涯教育」の違いについて、前者を「個人が得た経験により変容することでありその概念の中心は個人にある」こと、また後者の概念の主体は「学習者に働きかけその学習を支援する側におかれている」とまとめた。受講生たちのアンケートや自由記述の回答からは、講座の多様な形での提供への希望はあまり見られないが、多様な個人的な学習の達成感はかなり詳細に述べられている。この不思議な結果をまとめることは難しいが、角替が指摘する通り、生涯学習の主役は自分たちであるという意識が見られるのではないかと推測できる。

「生涯教育」の場を創る側として、短期間の発音クリニック講座に受講生が求めるものを探るために調査を行ったが、エクステンションプログラムの意義を改めて理解し直した思いがする。受講生にとっての、英語発音クリニッ

クを通した「生涯学習」とは、通常大学学部内で行われるシラバスに沿った学びとは異なり、「生涯学習者」が受講により未知のことがらを学び、求めていたことを見つけ、各々の社会生活の中に自信を持って応用させていく循環型のループの過程を指す。受講により自ら整えた「自発的動機」「取組」「環境」は3つの歯車のように作用し、受講生の中で様々な思いを生み出す。エクステンションプログラム（生涯教育講座）の役割は、受講生が学生であろうと企業で働く人であろうと、子育て・介護中であろうと、「英語発音クリニック」という名称のもとに、受講生自身が挑戦し、気力を充実させ、自信をつけるきっかけを持つための「支援」「見守り」側であるという結論に至った。この様にエクステンションプログラムは大学としては生涯教育のプログラムとして提供しているが、学習者にとっては生涯学習の場となる。今後大学のプログラム策定にあたってはこのことを再考する必要がある。

注：本事例報告は2018年8月に全国英語教育学会（JASELE）第44回京都研究大会（於：龍谷大学）にて口頭発表したものを加筆修正したものである。

謝辞

本講座の運営に携わった同志社女子大学英語英文学会事務局スタッフに深く感謝の意を表す。

参考文献

- 人見麗子 (2016). 「〈コラム〉学び続けるということ：経験を通して」『京都大学生涯教育フィールド研究』 4、107-110.
- 今井由美子・井上球美子・井上聖子・大塚朝美・高谷華・上田洋子・米田信子(2014). 『Sounds Make Perfect』英宝社.
- 文部科学省白書 (2006). 文部科学省白書第2部第1章第1節1. 生涯学習の意義
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200601/002/001/003.

htm (2018/6/16閲覧)

佐々木保孝 (2014). 「英米における大学解放の歴史」『天理大学生涯教育研究』20、33-53.

角替弘規 (2016). 「生涯学習教育に求められる教師の資質」『桐蔭叢』33、15-21.

Vonnahme, P. E. & Horner, D. O. (2017). “Development of Continuing Education (C. E.) for Adults: Instruction and Success of English C. E. at Koriyama Women’s University.”『郡山女子大学紀要』53、255-264.

資料1 〈生涯学習における発音指導 アンケート用紙〉

「生涯学習における発音指導研究」へのご協力をお願い

大阪女学院大学
特任講師 上田洋子

同志社女子大学英語英文学会 発音クリニックを受講された皆様へ

本発音クリニックを受講していただいた皆さんに、研究活動のためのご協力のお願いがあります。私は大学教育における発音指導について研究しており、現在は「生涯学習における発音指導」を研究テーマにしています。皆様に、本講座受講後の貴重なご意見をいただけましたら、幸いです。また同時に、ご協力いただきましたアンケートと自由記述の結果などを研究論文や学会で使用しても良いかをおたずねしたいと思います。同意していただいた方の資料は今後の英語音声教育の研究のための貴重なデータとして分析しますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

このアンケートの結果などが学会・研究で使用されることに

・同意します () ・ 同意しません ()

ご署名 _____

質問紙〔A〕

1. 現在の状況をお尋ねします。(学生 / 社会人) 年齢 (代)
2. 本講座を始めて受講される方は(初回)に、また以前に受講されたことのあるかたは、本講座を含めての受講回数をお書きください。
(初回 / 回)

3. 英語発音に特化した授業を他の教育機関などで受講されたことはありますか。(ない / ある)

4. 3で(ある)と答えた方は、どのような教育機関でその講座を受講されたのかを○で囲んでください。

小学校 中学校 高校 大学 塾 英会話スクール

その他： _____

5. 本講座を受講された最も大きな理由を○で囲んでください。

仕事 趣味／楽しみとして 英語能力検定などの得点アップのため

その他： _____

6. 5回の受講で何かご自分の中での変化があったでしょうか。直接英語発音と関係がなくても、お気づきの点をお書きください。

質問紙〔B〕

次のアンケート設問に対する答えを5段階の数字の中から選び、○で囲んでください。

そう思う そう思わない

1. 英語の発音を学ぶことは英語の能力全体を上げるのに役立つ
5 4 3 2 1
2. 英語の発音を学ぶことは仕事・学業・生活の活性化に役立つ
5 4 3 2 1
3. 指導者に自分の発音を直されたり、アドバイスされる事に抵抗はない
5 4 3 2 1
4. 音声学の理論を用いて説明する本講座の指導法に抵抗はない
5 4 3 2 1
5. 発音記号を用いる本講座の指導法に抵抗はない
5 4 3 2 1
6. 教室でPCを用いて発音を録音再生することに抵抗はない
5 4 3 2 1
7. 教材としてインターネットの動画などの利用に抵抗はない
5 4 3 2 1
8. クリニックの指導法に、発音を点数評価されるものがあれば受けたい
5 4 3 2 1
9. 発音指導をビジネスの内容や、絵本音読などに特化したものがあれば良い
5 4 3 2 1
10. 発音指導の出張講座があれば（自分の生活に合わせた時間や場所の設定ができるので）良いと思う
5 4 3 2 1

ご協力ありがとうございました。

資料2 〈生涯学習における発音指導 受講生自由記述回答一覧〉

[原文ママ]

質問紙〔A〕の項目6 「5回の受講で何かご自分の中での変化があったでしょうか。直接英語発音と関係がなくても、お気づきの点をお書きください。」

__発音記号を意識して発声するようになった。聞き取りの歳、発音がどうなっているか気にするようになった。

__自分の発音を録音して聞いた時に、思っていたよりも母音・子音とも甘かったことに気付きました。理論を学ぶことで、普段から意識して発音するようになりました。/ʌ/ や /ɔ:/ など、誤解して認識していたことがわかって良かったです。

__日本語で理論的に発音について説明をいただいたことが初めてでしたのでよくわかり有意義だったと思います。

__speaking の授業などで特に発音を意識するようになった。リスニングが以前より出来るようになった気がする。

__少しは発音が良くなった。60年前に発音記号を一度習ったきりなので辞書をひいても正確には理解できない状態であった。中1の英語を全く知らない時に発音記号だったので、取り組み方がわからなかった。少し英語がわかるようになってからくり返し発音記号を学ぶ方が良い。

__ニュースやドラマで聞きとりにくかった英語が、このクラスで発音や連結・脱落・同化などを意識するようになってから、前より聞こえてくるように

なりました。イントネーションやリズムも意識するようになりました。もっと練習していきたいと思います。

__大人になってから正しい発音を身につけるのは難しいです。子供のころからやりたかった！！（習いたかった）それでも以前よりはリスニングが上達したし、海外ドラマを見ていて学んだことが出てきてわかると嬉しいです。

__同化や脱落などを学ぶことによって、speaking のこつがつかめてきたように思います。またこれは listening にも言えます。ひとつひとつの音を個々に学ぶことはあっても同化や脱落を学ぶ機会はあまりなかったので役立ちます。

__日本語では口を大きくあけて話すことが少ないので、英語を話す上で口を動かすことの重要性を再確認できて、大変有意義な講座でした。ありがとうございました。

__大学のリスニングの試験で聞きとれる音が増えた。

__リスニングの時に省略されている音がわかるようになった。

__大昔に習ったフォニクス（音声学）を思い出し楽しかった。当時シェイクスピアなどは全く興味が湧かなかったが、音声学だけ（当時の教授は中島先生だった）は学習意識をそそられた。母音や子音の基本的な発音を丁寧に意識しながら発音するよう心がけるようになった。当たり前ですが先生の発音のすばらしさに驚嘆致しました。

P.S. 1 TED のサイト情報、大変有益です。通勤の途中に聴きます。

P.S. 2 宿題はやはりこなすのは難しいです…家庭での時間に宿題を回すのは priority last になってしまうので。